

熊本県立大学コロナ対応教育用・事務用 PC 等購入に係る調達仕様書

- 1 品名及び数量 ノートパソコン 130 台、ディスプレイ 113 台
(付属品を含めて、すべて同一機種の新品で納品すること。)
- 2 納入期限 令和5年3月31日(金)
- 3 納入場所 ディスプレイ：組み立てのうえ大学内の建屋毎(10か所程度)にまとめて納入(設置は大学が行う)
その他の物品：熊本県立大学デジタルイノベーション推進センターへ一括納入
- 4 機能等
 - (1) ノートパソコン(130台)
(機種：Lenovo ThinkPad E15 Gen 4：型番 21EES0CV00)
中央演算処理装置 AMD Ryzen 5 5625U
主記憶装置 16GB 以上
補助記憶装置 SSD 256GB 以上
液晶ディスプレイ 15.6 インチ FULLHD(1920x1080) 以上
キーボード 日本語キーボード
カメラ Webカメラ内蔵(720p 以上)、カメラを物理的に隠すシャッター付き
有線LAN 内蔵(1000BASE-T 以上)
無線LAN IEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax 以上
Bluetooth V5 準拠
マイクロフォン/スピーカー 内蔵
マイクロフォン/ヘッドフォンジャック(コンポジットも可) 内蔵
電源コード 添付すること。
マウス レーザー式マウスを添付すること。(参考機種：ELECOM M-S2ULBK/RS)
OS Windows 11 Pro 64ビット(納品後 Windows Autopilot を利用して Windows 11 Enterprise にすること。)
 - (2) ディスプレイ(113台) (機種：Lenovo T32p-20：型番 61F2GAR2JP)
 - (3) その他の機器(113台)
キーボード 日本語キーボード(有線) (参考機種：ELECOM TK-FCM062BK)
パソコンスタンド 納入するパソコンを閉じ、立てた状態で運用できる安定性、強度を持つこと。(参考機種：サンワサプライ PDA-STN32BK)
- 5 パソコンの初期設定等について
今回より短時間で容易に展開を行うため Windows AutoPilot を採用する。下記の対応を行うこと。
なお、Microsoft Intune のライセンスは大学が保有しており、Azure とも基本的な連携は実施済み。
 - (1) AutoPilot を速やかに行うために、納品前に本学が契約する Azure AD へハードウェア ID を登録しておくこと。

- (2) パソコン本体外箱へ PKID (Microsoft Product Key ID) とそれを読み取るバーコードをメーカーにより印字しておくこと。
- (3) パソコンの SSD イメージが壊れて OS が立ち上がらなくなった場合に、下記 2 種類の出荷イメージに戻す方法を提供すること。
ア UEFI (BIOS) から立ち上げ、インターネットダイレクトでの復旧
イ USB 媒体を使用してから立ち上げ、復旧 (USB 媒体は 2 セット以上納品すること。)
- (4) BIOS については、以下のとおり設定して納品すること。
AC 接続時に PC を起動する 有効
スーパーバイザーパスワード 別途指示します
システム管理パスワード 別途指示します

6 インストールするソフト

下記ソフトウェアを工場出荷時点でインストールすること。また上記インターネットおよび USB からの復旧時には Office 365 をインストールしたこの出荷イメージに戻せるようにすること。

(Microsoft ソフトについては、EES 契約が利用可能。)

Office 365 (A3 ライセンス)

(Word、Excel、Powerpoint、Onedrive、Teams、Outlook、Windows Defender)

7 その他

- (1) パソコン本体及び電源コードに、本学が指定した名称を印字した管理用のシールを貼付すること。ディスプレイについては本体のみに管理シールを貼付すること。
シールについては、受託業者において作成すること。
パソコン本体については、本学が契約している資産管理ソフトのシールを併せて貼付すること。
- (2) 納入したパソコンの管理用の一覧表 (管理用名称、シリアル番号及び MAC アドレス等) を作成し納品すること。MAC アドレスを持たない機器の MAC アドレスの記載は不要とする。
- (3) 不要となった梱包材等は廃棄すること。(一部は保管用に使用するので廃棄せず納品すること。数量については本学に確認すること。)

8 納入までの作業の流れ

- (1) 先行して端末 3 台をデジタルイノベーション推進センターに納入する。
- (2) 大学と契約業者で協力し Autopilot での設定等の展開の確認を行い、Autopilot のプロファイルを確定させる。
大学内で使用中の、財務システム、教務システム、庶務事務システム等の動作確認を行うこと。
なお、設定予定の項目は別添初期設定予定一覧のとおり。
- (3) 契約業者は、利用者用の利用開始までの作業手順書のひな形を作成すること。